

上川中部地方における間伐等の推進を考える

上川中部森林管理署 森林整備官 高橋 輝
主任森林整備官 吉田明史

研究の背景

適切な森林整備を図るため間伐等の推進が課題となっていますが、労働安全性、生産性向上、コスト削減、機械化等の観点から、より一層列状間伐等の推進を図る必要があります。また、民国ともに列状間伐施業地においてハーベスタ等の高性能林業機械が十分に活用されていない状況にあります。

研究の目的・内容

このため、「民国連携による、列状間伐を普及させるための研修会」、「北海道型作業システムモデル施業地におけるハーベスタ等を活用した間伐」及び「高性能林業機械を活用した列状間伐等の推進にあたり、何が問題となっているのかを把握するための林業事業者へのアンケート・聞き取り調査」を実施したので報告します。

① 民国連携による、列状間伐を普及させるための「森林計画実行管理技術研修会」

- 上川中部地方において列状間伐を推進するため、民国連携で、市町村、森林組合、指導林家等を対象に研修会を実施しました。
- 室内で国有林における列状間伐等の考え方を説明するとともに、1回目の列状間伐実施後10年経過した林分、本年度2回目の列状間伐を実施する林分等において説明・意見交換しました。
その結果、列状間伐への理解が深まり、導入を検討する市町村も出てきました。



室内研修状況



現地研修状況

② 北海道型作業システムモデル施業地におけるハーベスタ等を活用した間伐

- 林業専用道を68m/haまで整備した「北海道型作業システムモデル施業地」において、局等の指導の下、ハーベスタ等を活用した列状間伐を実施しました。
- 民有林・国有林関係者に、現地を見ていただき、高密度の路網と高性能林業機械を組み合わせた取組等について理解を深めていただきました。



伐採状況



列状間伐実施後

③ 列状間伐等の推進に向けた林業事業者等へのアンケート・聞き取り調査

- 林業事業者等12社に対してアンケートや聞き取りを実施したところ、ほとんど列状間伐の実績はあるものの、「森林所有者の意向があり定性間伐が多い」との話もあり、一層の普及啓発が課題と考えました。
- ハーベスタについては、「かかり木が少なく、安全上も良いが、伐採幅4mでは十分な活用困難」、「急傾斜では使用困難」、「伐根が高くフォワーダ走行に支障」、「購入・維持費が高く、事業量確保が必要」、「有利採材を行えるオペレータ育成に長期間必要」などの意見が出されました。



林業事業者へ聞き取り

今後の展開

これらの取組を踏まえ、今後も一層の間伐等の推進を図ります。また、引き続き民国連携により、定量的なデータも用いて列状間伐等に係る普及啓発を推進するとともに、調査・検討を進めます。